

(1) 長寿命化計画の目的

小林市の学校施設については、老朽化が進んでおり、また、児童生徒数についても減少傾向が今後も続くことが予想されます。

これらを踏まえて、学校施設の在り方について多方面から検討し、安心・安全な施設環境の確保や教育環境の質的向上を図るために施設の長寿命化についての方針を掲げることを目的として小林市学校施設長寿命化計画を策定します。

(2) 計画期間

令和3年度から令和42年度までの40年間とします。

\*社会情勢、国等の動向及び市の財政状況などを鑑み、長寿命化の実施計画については、40年間のうちの今後10年間について定め施設整備を進めていきます。

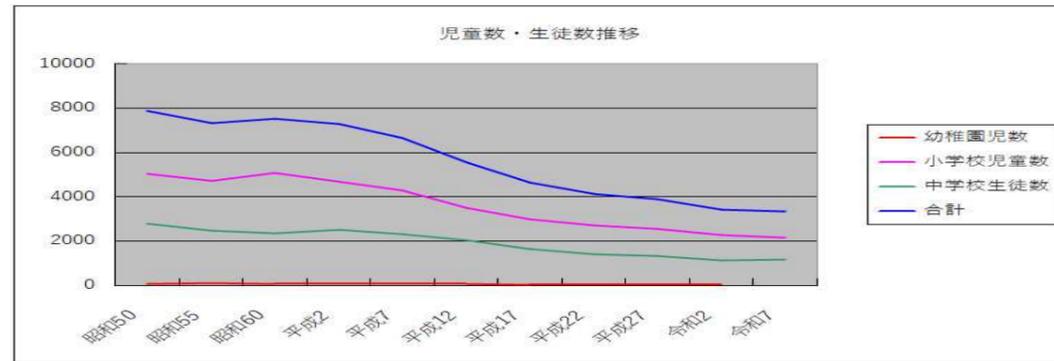
(3) 対象施設

小林市が保有する学校施設（幼稚園1校、小学校12校、中学校9校）のうち、200㎡以上の建物、プールを対象とします。

(4) 児童生徒数の推移

令和2年度の小中学校の児童生徒数は合計で3,417人であり、昭和50年の児童生徒数の約43.8%です。

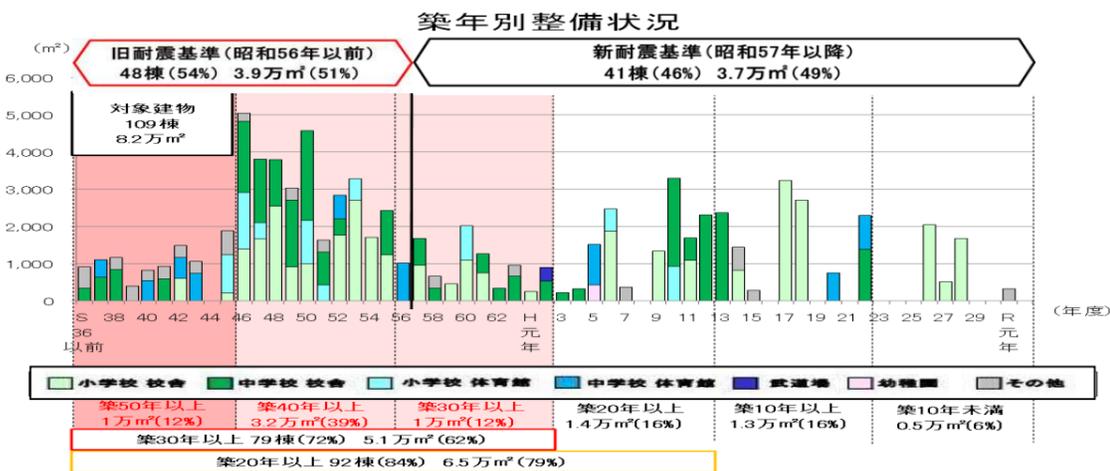
図表1-2 児童生徒数推移



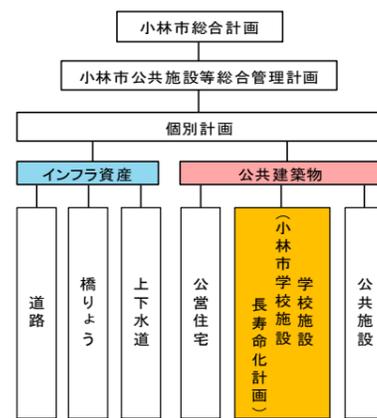
(5) 学校施設の保有状況

学校施設の床面積を築年別にみると、築30年以上40年未満が約12%、築40年以上50年未満が約39%、築50年以上が約12%と築年数が30年以上の建物が全体の約62%に達しています。

図表1-3 築年別整備状況

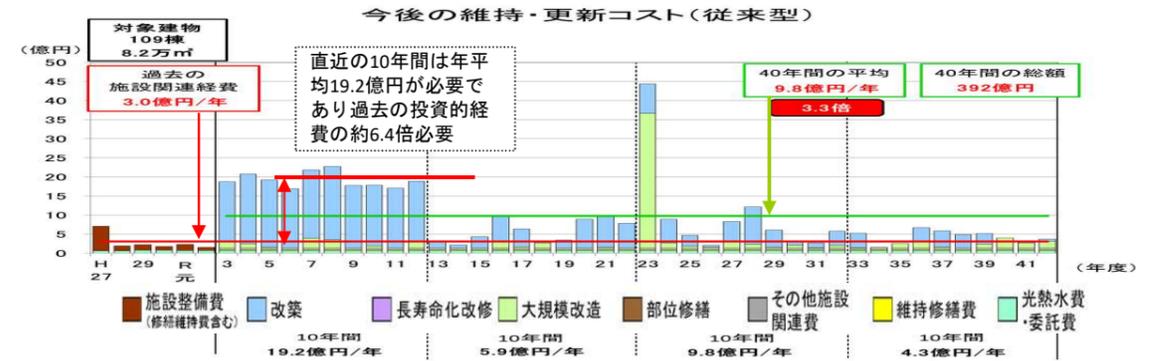


図表1-1 個別計画の位置づけ



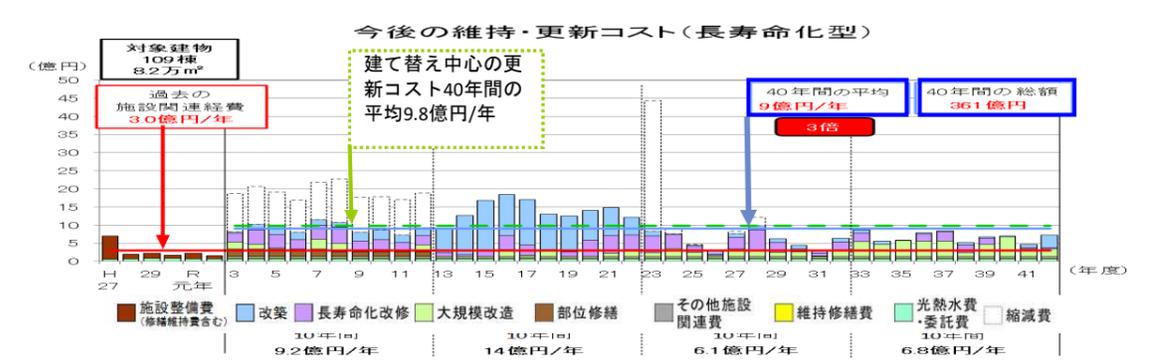
(6) 今後の維持コスト（従来型）

図表1-4 今後の維持・更新コスト（従来型）



(7) 今後の維持コスト（長寿命化型）

図表1-5 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）



(8) 学校個別基本方針

- 児童生徒数が今後、比較的維持される学校  
現状の規模や機能を維持しつつ、老朽化に伴う改築や長寿命化、複合化を検討する。
- 児童生徒数が今後、減少することが見込まれ、施設の老朽化が進んでいる学校  
施設の統廃合や複合化、長寿命化を含めた学校の在り方を早急に検討する。
- 児童生徒数が今後、減少することが見込まれるが、施設の老朽化は進んでいない学校  
施設の大規模改修や改築をする際には、施設の統廃合や複合化、長寿命化を含めた学校の在り方を検討する。

(9) 改修等の基本的な方針

- \*施設の機能向上を図り、80年程度の使用を目指します。
- 築20年目（大規模修繕）・・・損耗、機能低下に対する機能回復工事
- 築40年目（長寿命化改修）・・・経年劣化による機能回復工事と、社会的要求に対するための機能向上工事
- 築60年目（大規模修繕）・・・損耗、機能低下に対する機能回復工事

(10) 長寿命化の実施計画

- 今後10年間の施設整備について下記のとおり計画を進めていきます。
- 野尻中学校体育館屋根改修工事
  - 東方中学校体育館大規模改修工事
  - 三松小学校体育館改築工事
  - 西小林地区学校施設整備
  - 細野小学校体育館床改修工事

(11) 長寿命化計画の継続的運用方針

学校施設の適切な維持管理においては、継続的な点検や効率的な運用が重要となるため、関係機関と連携を図りながら進めていきます。